

「健康な生活と疾病の予防，体づくり運動」
健康課題を自分事として捉え，ペアと協力して課題解決に向けて主体的に取り組む授業

二本松市立二本松第一中学校 草野 洋一

1 単元によせる授業者の思い

本学級の生徒は，積極的に学習や運動に取り組む生徒が多く，自分の考えを整理して発表できる。また，友達と協力し，運動を楽しみながら行うことができる。また，タブレットの操作に慣れており，タブレットを活用した調べ学習もできる。

単元に関わることとしては，「自分は健康である」という意識から，かかりつけの病院を知らない，自分の健康に興味を示さない等の生徒が多い。本研究では，2つの単元を通して，医療機関の種別や適切な医療機関の利用について学び，自分自身の健康について考えさせるきっかけとしたい。また，二本松市の健康問題について考える保健の授業の後に，体づくり運動の授業で，自身が考案した運動の検証を行うようにし，保健分野と体育分野の内容を連動させることで，適度な運動の必要性を感じながら，主体的に取り組めるようにしていきたい。



- ② 教師の祖母の話から，学びを自分事として捉え，自分の将来や家族の将来をイメージし，課題解決に向けての動機付けとした。



先生の祖母は，脳梗塞で，半身不随でした。血管がもろくなっていたのかも。

視点II

互いの考えを聴き合い協働的に学ぶ指導の工夫

- ① 授業の終末には，ペアの動きと自分の動きを振り返る時間を設定した。ペアを観察する視点をもたせることで，自他の動きを相互評価する場とした。今回の授業だけでなく，1年間通してペアの動きを振り返る時間を設定した。



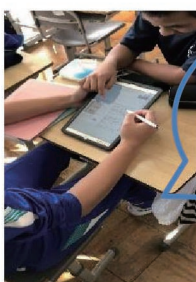
高齢者はここまで手を挙げる事ができる？

2 授業の実際

視点I

見方・考え方を働かせながら学びを自分事として捉える指導の工夫

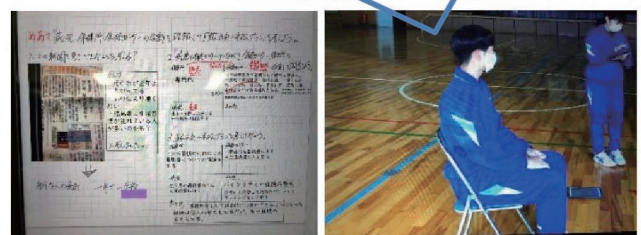
- ① 二本松市や福島県の資料を積極的に活用し，課題を身近な問題としてとらえられるようにした。また，自分の将来として「自分だったらどうするか」を常に考えて授業に参加させた。



将来，自分はどうな運動をしようかな？

- ② 調べ学習では，積極的にタブレットを使用して，調査をした。その際，ペアで調査する役割を分担した。また，調査結果を聴き合う場面では，相手の考えをくわしく聴くようにした。

職場の運動はイスが有効だね。



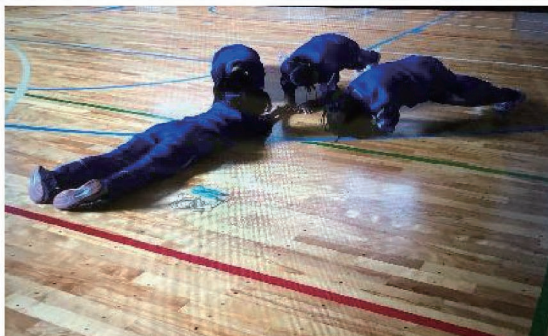
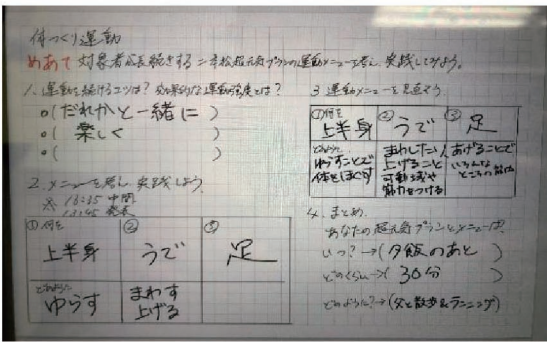
視点Ⅲ

生徒のつぶやきを共有化させる指導の工夫

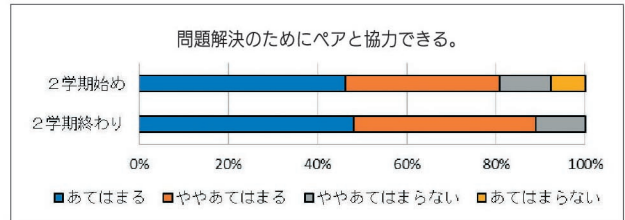
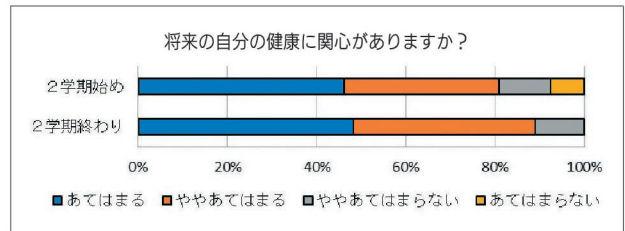
- ① タブレットを活用して、生徒のつぶやきや感想を収集した。収集した情報を教師が判断し、全体に共有が必要な場合には、全体で共有した。



- ② タブレットを活用して、運動を長く続けるコツや高齢者向けの運動メニューをインターネットで調べたり、班員で話し合ったりして作成した。



3 子どもの変容



〈考察〉

将来の自分の健康や二本松市民の健康を考えたことにより、生徒の健康意識が高まったように思う。また、ペア活動を取り入れたことにより、ペアの関係が良好となり、課題解決に向けて協力して活動に取り組む様子が、多く見られるようになった。

4 研究のまとめ (○成果●課題)

【視点Ⅰ】

- 「将来、仕事を続けるためにも運動は大切」と答えた生徒が多かったことから、健康について自分事として捉えていたことが分かる。
- 高齢者等の実態が実感できず、自分以外の健康について考えることは難しいという感想があった。

【視点Ⅱ】

- どの授業内容でも、ペアの観察の視点を設けたことにより、協力して課題を解決する場面が多く見られた。
- 人間関係によって協動的な学びが停滞する場面が見られた。ペアの編成に工夫が必要である。

【視点Ⅲ】

- タブレットを活用することにより、意図的な指名ができた。また、大きな声で自信をもって発表する生徒が多かった。
- 運動量が十分に確保できたかについて疑問が残る。タブレットの活用については、引き続き考えていく余地がある。

実際の指導案はこちらへ▶

